

# つながり つづくよ 人の輪 地域の和



有機の里宣言

村の挑戦は、一人の農家の取り組みから始まった

安全・安心を求める声に村をあげて応える宣言ね!

平成二十二年に県内で初めて、低農薬・低化学肥料の農業を推進する「有機の里宣言」をした宜野座村。水と緑に恵まれた同村は、豊かな自然環境を次世代へつなげる環境保全型農業を軸に「有機の里 宜野座構想」を策定し、食育や地産地消、人の交流も合わせた、さまざまな取り組みを推進しています。

この構想のきっかけとなったのが、同村で志良堂農園を営む志良堂貢さんの農業と化学肥料を一切使わないで行う野菜の栽培でした。今から約十年前、環境に優しい農

## 宜野座村

環境保全型農業の地道な一歩が地域の力を刺激し、村おこし「有機の里宣言」へつながっています。



宜野座エコ野菜研究会の発足について語る呼びかけ人の志良堂さん(中央)と同会会長の大城さん(左)、仲間さん(右)

業のあり方を模索していた志良堂さんは、高さ約1mほどのところに棚(ベンチ)を作って、そこへ砂を敷き詰めて作物を育てる「高設砂耕栽培」に出合い、この栽培法にチャレンジ。海砂の使用や有機質肥料をプラスするなど試行錯誤を繰り返しながら、野菜の安定収穫と商品化を進めていきました。そして平成十五年、同村の若い農家たちと一緒に「宜野座エコ野菜研究会」を設立しました。

エコ農業の普及

行政のサポートが、エコ農業を支える

宜野座エコ野菜研究会の会員五人は、皆、県のエコファーマー認定者。その中の一人、仲間信之さんは「栽培法について、最初はまったくイメージができませんでしたが」と同会に参加した当時は振り返ります。現在、同会では、ベビーリーフを中心に、沖縄県の特別栽培農



ベビーリーフが育つ「高設砂耕栽培」の現場。普段は網目の細かい防虫ネットで囲われている

民間と行政の連携が、強い力を生むんだね。



「有機の里」の可能性について語る宜野座村産業振興課の伊芸宏夫さん

この同会の地道な活動に対し行政が動き出し、「有機の里」を宣言しました。葉野菜の販売袋の供給や、宜野座村独自のエコ農産物ロゴマークの制定、出荷野菜の確認責任者を行政サイドが担当するなど、エコ農業のサポート体制を整備。「農業の現場が声を発してくれた

ことで、具体的な支援ができました」と語るのは同村産業振興課の伊芸宏夫さん。「食べ物への安全・安心を求める時代ニーズや、国が推進する環境保全型農業と合致したエコ農業は村おこしの起爆剤になる」と志良堂さん。地域住民と行政の連携によるエコ農業は、環境保全と地域振興の両立による村おこし機運の高まりへとつながっています。



ぎのざエコ農産物認証マーク入りのベビーリーフ。化学肥料や化学農薬は使わずに栽培

全村民参加型へ

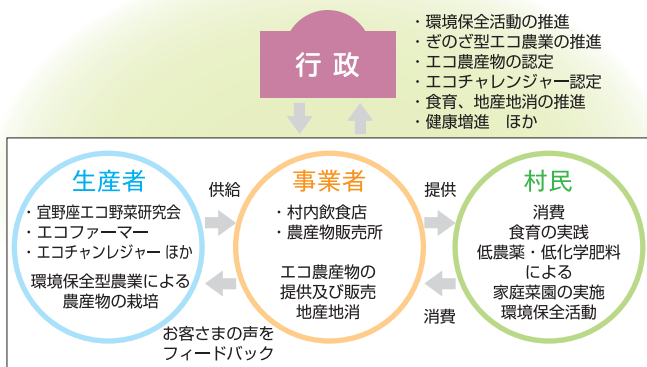
さまざまな分野からすべての村民が参加する村おこしへ

研究会のエコ農業をきっかけに策定された「有機の里構想」。農業関係者以外にも、教育関係者、飲食店関係者など、さまざまな分野から村



村おこしは地道な一歩の積み重ね!

### 宜野座村「有機の里」宣言



民が参加しています。村内で飲食店の炭焼家てんぷすを経営する金城善彦さんは、食育・健康増進の分野から参加。「安全・安心な食品の提供と地産地消の考えをもとに、エコ野菜研究会のベビーリーフをお客さまへ提供し、喜ばれています」と笑顔で語ってくれました。伊芸



エコ野菜研究会の野菜を使ったメニューを提供する村内飲食店のオーナー金城善彦さん



エコ野菜研究会のベビーリーフは、安全・安心でフレッシュと地元の人や観光客にも好評

さんは、「今後、有機の里構想では、エコファーマー認定者拡大や、百坪以下の農家および家庭菜園栽培者の低農薬・低化学肥料を推進する宜野座村独自のエコチャレンジャー認定を普及させたい」と行政担当者としての熱い思いに瞳を輝かせます。

同会は平成二十二年には全国環境保全型農業推進会議奨励賞を受賞。農業や化学肥料を使わない栽培を持続させるには常に高い意識をもって取り組まなくては」と有機の里構想において同会が担う役割を力強く語る

会長の大城淳さん。エコ農業から始まった、すべての村民が村の活力であるという村おこしは、地道に、着実に、その一歩を重ねています。



「有機の里宣言」の可能性に、ワクワクするね。

### 編集後記

10月、11月は涼しくて過ごしやすいため、結婚式が多い季節です。先日、県外の結婚式に初めて出席した際に、沖縄の式との違いに驚きました。出席者が少ない、余興が少ない等々。沖縄の賑やかな式もいいですが、県外の式も落ち着いて雰囲気があり、感動的でした。(kai)

先日、「第5回世界のウチナーンチュ大会」に参加しました。故郷を離れ、数々の困難を乗り越え、海外で活躍してきた先人達は本当にすごい!!と改めて感じました。今月の広報誌の自由企画のページでは、世界を舞台に活躍しているウチナーンチュ、仲宗根梨乃さんを紹介しておりますので、是非ご覧ください。(tama)

平成23年11月1日発行 第35巻11号通巻434号

沖縄県広報誌 **美ら島沖繩**

企画・編集・発行 沖縄県知事公室広報課

〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2 TEL.098-866-2020

### アンケート

「美ら島沖繩」の感想をお聞かせください。

▶ パソコンはこちら

▶ 携帯電話は、右のQRコードから

